

第29回学校評議員会 会議録

平成25年2月8日(金) 15:00~16:30

弘前高校会議室

出席者 学校評議員 5名

学 校 側 校長、教頭(司会)、教務主任

進路指導主任、生徒指導主任、教務部員(記録)

1 校長挨拶

校長 : 校長の古山でございます。本日はお忙しいところ、天候の悪い中ご来校頂いてありがとうございます。学校評議員会は年にわずか2回しかありません。その2回で学校のような問題をすべて話し合うのはとても難しいことでもあります。しかし評議員の皆さまから貴重なご意見を頂き、広く公表できる重要な会議であると考えています。是非とも皆さまからのご意見を、今後の学校経営に役立てていきたいと考えております。

2 学校の現状報告および意見交換

教頭 : 教頭の奈良と申します。今日は司会を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。生徒指導部、教務部、進路指導部の順で現状報告をさせます。

生徒指導部 : 今年度の部活動は例年以上の活躍でした。青森県高等学校総合文化祭において優秀賞以上の成績をあげた文化部は、写真部、文芸部、新聞編集局、書道部、囲碁部、将棋部、放送局の7つでした。特に写真部はたくさんの生徒が入賞し学校賞を受賞したのが特筆されると思います。全国高等学校総合文化祭にも写真部、囲碁部、将棋部、書道部、放送局が参加しました。また自然科学部は「科学の甲子園」県大会2位の優秀な成績を収めました。運動部では軟式野球部、弓道部、陸上競技部、水泳部、ボウリング部、空手道部が新人大会で良い成績を収めました。特に軟式野球部と弓道部は県大会で団体優勝しました。軟式野球部は北奥羽大会で惜しくも準優勝でしたが、非常に立派な成果だったと思われます。卒業式前日の表彰式では、青森県高体連賞にゴルフ部3年生、テニス部3年生が、青森県高野連賞優秀選手賞に軟式野球部3年生が、青森県優秀選手賞にゴルフ部3年生が表彰されます。

次に昨年4月から今まで生徒指導部が対応した事案について説明をします。自転車のマナーに関する苦情4件、自転車運転中の交通事故12件、不審者被害1件でした。弘南電車の乗車マナーについての苦情も1件ありました。生徒を送迎している車両による校門付近での事故も1件ありました。自転車による交通事故が多いので機会をみて生徒に注意を喚起して事故防止に努めました。不審者情報が得られたときにはすぐにホームルームで生徒に連絡し、注意を喚起しました。グラウンド下という学校のすぐ近くでおきた件もあり、これからも注意をしていきたいと考えています。このような状況であるので、今年の避難訓練では不審者が学校に侵入してきたという想定で実施しました。避難訓練は3回実施し、あとの2回は地震と火災の想定で実施しました。

現在進路決定者が10名程自動車学校に通学しています。事故等が起きないように注意をして通わせています。

教頭 : 軟式野球は東北大会の決勝まで進んで敗れましたが、近年になく良い結果を出してくれました。続いて教務部の報告をお願いします。

教務部 : 昨年度と同様に11月に学校評価を実施しました。回収率は78.9%でした。昨年度よりも若干下がりましたが、それでも他校は6割から7割の回収率なので、高い回収率だ

と思います。これは保護者の学校に対する関心の高さを示していると思われます。内容に関しては学習活動やねぶたに関する評価は高いですが、生徒の悩みに適切に指導しているか、部活動と勉強との調和がとれているかなどの生徒指導的な項目では、若干低い評価になっています。教育方針・学校経営、施設設備、学校生活、家庭との連携、教育課程、学習指導、学校評価、公開授業、学校行事、部活動、文武両道、生徒指導、進路指導、模試、講習、保健・衛生についてたくさんのご意見を頂きました。頂いた意見については、改善できる点を検討し機会を見て公表して行くつもりです。特に平成25年度からの新学習指導要領完全実施においても、全人教育を進めるとともに、生徒の進路志望が達成されるような教育課程の編成を目指していきます。エアコンの設置については要望の多いところではございますが、青森県全体の学校施設との関わりもありますので物理的、予算的にも無理であると考えています。緊急時における情報発信体制については、2月から県教育委員会の「緊急メール配信システム」を導入していきます。生徒送迎の車両については、増加傾向にあり天候の悪いときには特に危険な状態にあります。また近隣の地域住民の方へもご迷惑をお掛けしていることもあり、保護者の方へ注意をお願いしていく必要があります。

前回もお話ししましたが、平成24年度からの理科・数学の新学習指導要領先行実施に続き、平成25年度から全教科で新学習指導要領が完全実施されます。本校では今年度からコマ数確保のため55分授業から50分授業に変更しました。適正なコマ数なのかどうかは、今後も検討していく必要があります。終業時間も月曜日と金曜日は6時間授業の15:00、その他の曜日は7時間授業の16:00となりました。なるべく部活動や高大連携事業への影響が少なくなるようにしています。また今年度から2年生での文理選択を実施することになりました。1年間選択が早まることになるのでキャリア教育を充実させ、特に担任とのきめ細かな面談をする必要がありますし、保護者の理解と協力を得ることも重要となります。カリキュラムにおいては、より多くの大学入試に対応するために、理科の履修の大幅な変更を加えました。今後も情報を収集して検討と改善を加えていく必要があると考えます。

本校は平成15年度より3年間「学力向上フロンティアハイスクール事業」を実施しました。指定終了後も本校独自で「中高連携事業」を実施してきました。今年度は黒石市立中郷中学校と弘前市立第四中学校を訪問して授業を参観してきました。第四中学校では校長先生から現状と問題点の説明を受け、情報交換も行いました。また本校で行った協議会では、市内中学校英語科の先生方に本校の授業を参観して頂き、意見・情報交換会を行い、さらに新入生の橋渡し教材の内容についての話し合いも行いました。

教頭 : 学校評価結果は本日の学校評議員会で伺った意見をまとめ、検討後に県に報告する予定です。教務部報告について何かご質問はありませんか。

評議員B氏 : 学校評価については、学年ごとで集計していないのか。

教務部 : 集計はしていますが公表はしていません。学年が進むにつれて進路指導の項目について厳しい評価になっています。時系列変化の評価も検討する必要があるかもしれません。

教頭 : それでは続いて進路指導部よろしくお願いします。

進路指導部 : 今年度の出願状況は昨年に比べて私立大学が減っています。専門学校も若干いますがすべて看護系です。国公立前期日程の特徴は近年になく弘前大学に出願している生徒が多いことです。原因は医学部に出願している生徒が増えていることにあります。昨年も多かったのですが今年はさらに増えています。東北地方、関東地方への出願は例年並みの人数ですが、関西方面は余り志望していません。

次に推薦・AO入試合格状況を報告させていただきます。私立大学指定校推薦として、早稲田大学政治経済学部、商学部、法学部、先進理工学部、東北薬科大学薬学部、青山学

院大学文学部、日本大学理工学部、明治薬科大学薬学部、立教大学経済学部に合格しました。特に早稲田大学政治経済学部への合格は特筆されると思われます。国立大学の推薦入試では、弘前大学教育学部、東北大学農学部、筑波大学人間学群、人文文化学群へ合格しました。私立大学では朝日大学法学部へ合格しました。AO入試では、東北大学工学部と防衛大学校理工学部へ合格しています。

次に学年ごとの進路志望について報告いたします。1年生の進路志望の特徴としては、医歯薬系が50人と多めになっています。2年生も医歯薬系が多い傾向にあります。2年生は文理選択で7クラス中5クラスが理系クラスとなっています。理系の5クラス編成は初めてのことです。希望として多い大学は、東北大、筑波大、弘前大です。

模試の成績では1年生は数学と英語、2年生では理系科目が苦しいようです。学習状況調査の結果を見ると、学習時間と比較して成果が出ていないような気がします。進路指導部からの報告は以上です。

教頭 : 進路指導部からの説明が終わりましたので、これから質疑応答に入ります。

評議員A氏 : 進路指導部からの報告を聞いて、弘前大学医学部の戦略が当たっているのを感じました。弘前大学の説明会を聞いて、地元の大学に進学しようとする生徒、またはさせようとする保護者が多くなっているからではないか。県外に出て行くことのメリットを積極的に宣伝しなければみんな近場で、進路志望が固まってしまう。県外に出て成功している卒業生を呼んできて講演させるなどの手段を講じて、不安感を緩和してあげないと近場の大学で共倒れになってしまう恐れがある。

評議員B氏 : 志望が近場に固まるのは、親の意向も強く働いている結果かも知れない。昔は「一浪ひとなみ」などという言葉があるくらい弘高も浪人が多かった。現役合格が増えているのも安全志向の高まりの結果ではないか。もっと遠くにチャレンジしていく気概が欲しい。親から「資格のとれる大学に進学しなさい」と言われてくる大学生も多いようだ。

評議員C氏 : ほとんどの親は大学進学相談相手にはなれない。

評議員A氏 : 資格は役に立たないことが多い。大学に進学したら、もっと根本的な力を身につけることを考えた方がよい。

評議員B氏 : 大学は資格を取らせるための学校ではない。これを保護者に納得させるのは難しいだろう。これからは資格偏重の風潮を是正していく必要がある。最近学生の学力の低下が著しい、政治に教育が振り回されている。知識重視ではなく、思考力を育成していく事を考えていくことが大事だ。

評議員C氏 : 確かにもっと思考力をつけていくことを考えていかなければならない。教育予算が増えたにしても、どのようにその予算が使われるのかが大事だと思う。校舎立て替えなどだけに使っても役には立たない。PISAで高成績をあげているノルウェーやデンマークの教育をもっと研究しなければならない。

教頭 : 報告内容に関する質問等はありませんか。

評議員A氏 : アンケートを実施し検討をしたら、なにか施策がなければならない。低い評価の項目について施策を出して欲しい。

評議員D氏 : 大学の学生の保護者でも、大学のことについてつぶさに知りたいと思う保護者が多い。具体的に言うと、保護者会のような大学の先生との懇談会を持って欲しいという要望がある。子供にある程度任せる姿勢というのも必要ではないか。保護者が学校に進路情報

を求めすぎている。待つ姿勢というのも大事だ。

評議員D氏： 推薦入試とAO入試というのは一人が両方受験することが可能なのですか。

進路指導部： 基本的に推薦入試、AO入試どちらか1回です。AO入試は基本的に自己推薦になります。AO入試は何回もレポートを提出するなど大学によって形式がだいぶ異なります。

評議員A氏： AO入試は一芸入試ではありません。AO入試は長期間にわたって受験生を見ることになります。入試に必要な人員を確保できない大学は、AO入試から撤退するところもあります。学力だけではなく全人的・多方面に調査し、適性など人物をみることも重視されます。

評議員B氏： 2泊3日の合宿をして様々な課題を与えて適性を見るAO入試もあります。他方学生確保が目標となっているAO入試もあります。やはり何をもって、大学で学ぶに足る学力とするかという定義が難しいです。特に医学部は仕事の性質上、人間性を重視せざるを得ないと思います。

教頭： 本校生徒に直して欲しいと思う点はありますか。

評議員A氏： 自転車事故は増えているのですか。

生徒指導部： 発生件数は年度によってばらばらです。交通マナーが悪いという外部からの指摘もあります。

評議員A氏： もし交通マナーを劇的に改善する事ができれば、宣伝になり学校の評価も上がり、それによって生徒に自覚も生まれます。自覚が生まれると良い波及効果がでて、他の部分が改善されることも期待できます。あれもこれもと欲張らないで、ポイントを絞って改善できると良いと思います。

評議員C氏： 学校公開の日に授業参観をして、ほとんどの授業を見て回りました。2割から3割の生徒がサボっていました。悪いと言っているのではなく、その方が安心できると思います。先生方には悩んでいる生徒に向き合って相談相手になってあげて欲しいです。先ほど教務部から説明された中では、全人教育を旨としている部分にホッとしました。勉強だけを偏重しないで、これからもバランスのとれた人間教育をしていって欲しいと思います。

評議員D氏： 3年間評議員をしてみて、例えばアンケートは取りっぱなしではなく、きちんと分析をしていることを知りました。都会の学校と違い長期休業中の講習を、計画的にしてくれるのは本当にありがたいです。学校が手取り足取り指導してくれるので、親は安心です。私の子供は今、遠くの大学に行っていて普段いませんが、卒業しても弘前高校が大好きです。在学中は3年生の大事な夏にねぶたを作ったりして、親として勉強はどうなのかと正直なところ本当にイライラしました。世界史は入試に間に合うのかとか。でも子供の高校時代の一番の思い出は「ねぶたはよかった」なんです。親は近視眼的に学校を見てみると、子供が卒業して少し分かりました。可能性のある子供をどんどん伸ばしていって欲しいです。今は学校はいろいろと言われることも多いですが、めげずに頑張っていって欲しいです。

評議員D氏： 文理選択の事ですが、2年生で文理選択をしなければならないのは本当に大変だと思います。やっと入学できてホッとしている時点で悩まなければならないので普通の親はとても困ると思います。正しい選択をするには先生方の努力が必要だと思います。生徒

のために、よろしく願います。

教頭 : 本校は東北で3年生で文理に分かれる唯一の学校でした。大学受験にとらわれず、全人教育の考え方に基づいて1年生で理科を3科目履修させています。文理選択では、最近理系を選択する生徒が多くなっています。

評議員A氏 : 理科の基礎科目、物理、生物、化学を、1年生で3つ履修するのは受験対策上しょうがないことだと思う。

評議員B氏 : 昔は東大の文系を受験する場合でも、理系を選ぶ者もいた。今の文理選択のシステムでは理系が多くなるのも仕方がないように思う。

評議員C氏 : 私は今、ボランティアで高校生の勉強を見ている。それでわかったが子供は手をかけると成績が伸びる。中学校や小学校の部分でつまずいていることが多い。成績が良くない生徒にも、手をかけて成績を上げてやって欲しい。

評議員B氏 : 中学校レベルの数学でつまずいている子供が多い。人生最初のつまずきが大きく影響する。分数や比率などの計算ができない大人も増えている。これが世の中の現実だ。

校長 : 忙しい中、長時間にわたり貴重なご意見を伺いありがとうございました。アンケートを実施するからには施策が伴わなければならないというのは、全くその通りだと思います。先日も外部から人を招いての、学校保健委員会がありました。最近夏が暑すぎるという意見が、アンケートで一番多く見られました。対策としてエアコンは難しくても、なんとか扇風機はつけてほしいという要望がありました。最近政治状況が変化し、教育政策も変化していくようです。例えば土曜日の授業の復活、イジメの法律で取り締まり、授業料無償化における所得制限の実施など。しかし本校はいかなる社会情勢の変化に対しても、本校が果たすべき本務を果たしていきたいと考えています。これからも本校に対するご協力を、よろしく願います。

教頭 : 今年度の学校評議委員会は今回で終わりです。また弘前高校のことで気づいたことがありましたら、いつでも学校にお知らせください。本日はご来校頂きありがとうございました。

終了 16 : 30